

クラス番号	619	担当教員名	片山善博
テーマ	社会福祉の人間学		
著書・論文 研究課題等	著書：『差異と承認』創風社、『生と死の倫理―「死生学」への招待―』DTP 出版、共著：『＜居場所＞の喪失、これからの＜居場所＞』学文社、『B 型肝炎被害とは何か』明石書店、『新時代への源氏学 架橋する＜文学＞理論』竹林舎など 論文：「人格と承認 社会福祉の人間学」、「福祉哲学再考のための試論」、「環境哲学の一つのプログラム―自然哲学と倫理学を統合すること」、「人間を問うことの現代的意味」など 研究テーマ：近代ドイツ哲学、社会福祉の哲学		

ゼミナール概要

キーワード：心と身体、福祉の文化、生と死の倫理

目的、内容、方法等：

医療も福祉も究極的には、「人間」を探究する人間学に行き着きます。例えば、医療や福祉の対象となる「心」や「身体」、あるいは「両者の関係」のあり方は、心身問題として古代から現代に至るまでさまざまなかたちで議論されてきました。また対人援助の基礎となるような「他者の理解」、「自己と他者との関係」のあり方なども、他者論として、これまたさまざまなかたちで議論されてきました。こうした心や身体や他者をめぐる問いについて、ゼミの皆さんと議論しながら、知見を深めていくことが、ゼミの目的です。

内容としては、「心身問題」「生命倫理」「ケア倫理」に関する話題を取り上げていきますが、より根源的な、人間の「生」と「死」の問題にまで踏み込んで行きたいと考えています。

方法としては、文献講読とゼミ発表を通じて、理解を深めていきます。読む力（解釈する力）を身につけることが、発表に深みを与えることとなります。文献については、臨床哲学や生命倫理に関するもの（例えば鷺田清一『聴くということの力』など）を考えています。ゼミ発表については、まずは、各自でテーマ（問い）を立て、15分程度の発表をしてもらいます。その後ゼミのメンバーで議論をします。議論については、問いに対する答えを探し出すというよりも、「発表者がなぜこの問いを立てたのか、こうした問いを立てることによって、何を語ろうとしたのか」を考えることを通して、「問いそのもの」を共有し、より深めていくことを目指します。問いを深めるということは、新たな自己発見につながります。

授業計画：

専門演習Ⅰでは、文献購読とゼミ発表を中心に進めていきます。文献については、初回に決めます。文献についてのレジュメを作成し、報告をします。前期と後期にそれぞれ一回ずつ発表をすることになります。参加者間で、議論したことについて、次週までにコメントを記した短い（600字程度の）文章を書きます。自らの意見を簡潔に文章化できることがねらいですが、これは考えを深める上でも重要な作業です。

また、適宜、映像文献を用いたり、ゲスト講師を招き、お話をいただきます。機会があれば、インタビューを中心としたフィールド調査なども行いたいと思います。

専門演習Ⅱでは、卒論の作成が中心になりますが、卒論提出までに各自2回の中間発表を行います。また、ゼミ時間外の個別指導も適宜行います。

担当教員からのメッセージ

ゼミでは参加者相互のコミュニケーションがとても大切になります。対話や議論を通して人は自己を形成していくものと考えます。異なる意見を尊重しながら、自己の知見を深められるよう積極的に参加してください。